

# Panasonic

**DVC/PRO 50**

ノンリニア編集システム

**Quick Cutter 50**

AJ-DE97

## 設置マニュアル

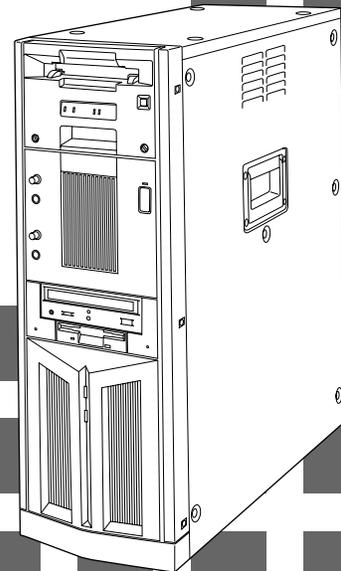
このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書をお読みいただくと、次のようなことがわかります。

- 本製品のセットアップのポイント (組み立て上の注意点)
- 本製品の機能チェックのポイント (起動後の機能動作の確認方法)

実際に作業を開始する前に、この設置マニュアル全体に一通り目を通しておくと、作業内容が理解しやすくなります。

映像や音声の取り込み、編集のしかたなど操作方法の詳細については、「リファレンスマニュアル」をお読みください。



ご使用前に本誌をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保管し、わからないときは再読してください。

上手に使って、上手に節電  
ご使用後は、忘れずに電源スイッチを切ってください。

# 目次

---

第 1 章	ここから始めてください	4
1-1.	付属品の確認と転倒防止脚の取り付け	4
1-2.	AC 電源電圧の確認と注意	6
1-3.	ケーブル接続の注意 (後面)	6
1-4.	周辺機器の接続とレイアウトの注意	7
第 2 章	電源起動確認と AV ディスクの検査	8
2-1.	電源起動の確認	8
2-2.	SCSI デバイス設定の確認	10
2-3.	AV ディスクの検査	12
第 3 章	ディスク関連の環境設定確認	13
3-1.	ディスク設定の確認	13
3-2.	AudioPool & VideoPool & TitlePool ディレクトリの確認	15
第 4 章	プリインストールソフトでの動作確認	16
4-1.	アップロード動作の確認	16
4-2.	編集機能の確認	24
4-3.	ダウンロード動作の確認	30

- Windows、Windows NT は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
  - Pentium は米国 Intel Corporation の登録商標です。
  - Adaptec、AHA および SCSISelect は Adaptec, Inc. の登録商標です。
- その他会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

# 目次

---

付録 <b>A.</b>	BIOS 画面表示	34
	A-1. 起動時の BIOS 情報について	34
	A-2. PC ユニットの BIOS 情報チェックの詳細	34
付録 <b>B.</b>	SCSI-BIOS Tool	39
	B-1. SCSI-BIOS Tool の概要	39
	B-2. SCSI-BIOS Tool の起動方法	39
	B-3. SCSI-BIOS Tool の使用方法	40
	B-4. SCSI-BIOS Tool の終了方法	44
付録 <b>C.</b>	Windows NT 付属 ディスクアドミニストレータの使用方法	45
	C-1. ディスクアドミニストレータの概要	45
	C-2. ディスクアドミニストレータの起動方法	45
	C-3. ディスク設定の確認	46
	C-4. ディスクの検査方法	47
	C-5. ディスクのフォーマット方法	49
	C-6. ディスクアドミニストレータの終了方法	52
付録 <b>D.</b>	Windows NT 付属イベントビューアの使用方法	53
	D-1. イベントビューアの概要	53
	D-2. イベントビューアの起動方法	53
	D-3. システム・イベントの確認	54
	D-4. イベントビューアの終了方法	54
付録 <b>E.</b>	ハングアップ時の機能限定版編集ソフト終了方法	55

本誌に掲載しているデバイスなどは、性能向上のため変更することがあります。  
ご了承ください。

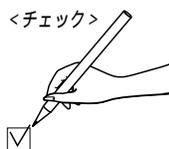
# 第1章 ここから始めてください

この章では、購入した本製品が使用できる状態になるまでの作業（セットアップ）と、その注意点について説明します。

1-1. 付属品の確認と転倒防止脚の取り付け	4
1-2. AC電源電圧の確認と注意	6
1-3. ケーブル接続の注意（後面）	6
1-4. 周辺機器の接続とレイアウトの注意	7

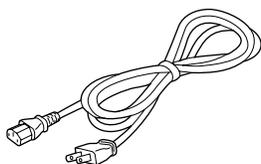
## 1-1. 付属品の確認と転倒防止脚の取り付け

<チェック>

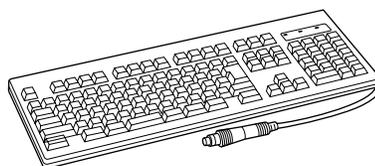


次の付属品が揃っていますか？  
接続の前に、付属品を確認してください。

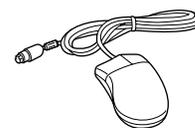
付属のマウス・キーボード・ケーブル類に、強い衝撃を加えないでください。  
故障の原因となります。



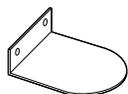
電源コード



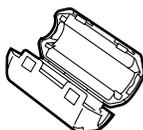
キーボード



マウス



転倒防止脚（4個）  
取付ネジ（8個）



フェライトコア（4個）

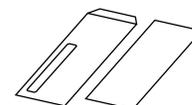
外部拡張用 SCSI HDD ドライブを接続するときは、  
SCSI I/F ケーブルの両コネクタ付近に、フェライトコアを取り付けてください。



設置マニュアル（本誌）



取扱説明書

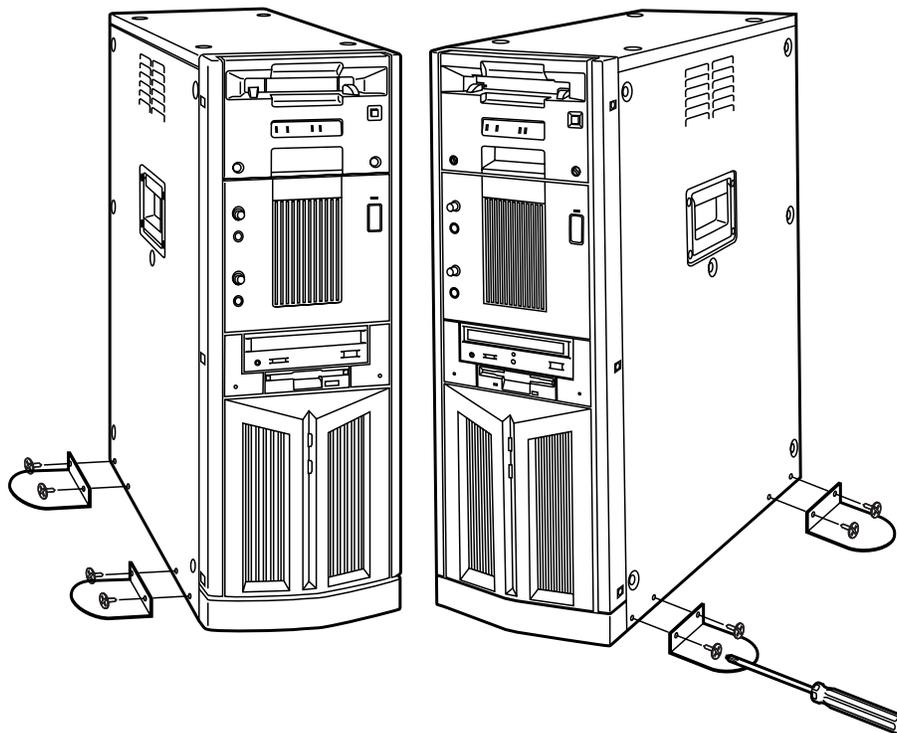


保証書

---

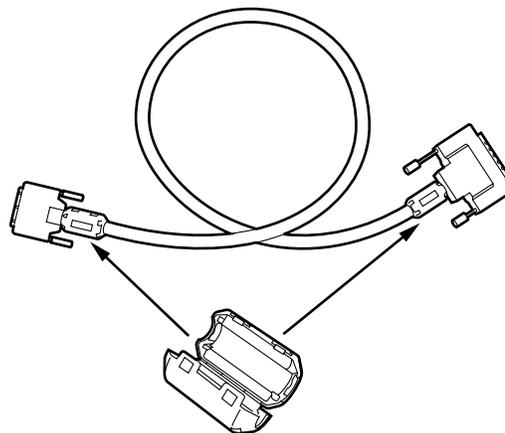
### 転倒防止脚の取り付け

付属品の確認が終わると、まず転倒防止脚を本体 4 個所に取り付けてください。倒れるとけがをするおそれがあります。



### フェライトコアの取り付け

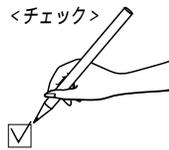
外部拡張用 SCSI HDD ドライブを接続するときは、SCSI I/F ケーブルの両コネクター付近に、同梱のフェライトコアを取り付けてください。SCSI I/F ケーブルには、アダプテック社製 ACK/M-WP のご使用を推奨します。



---

---

## 1-2 . AC 電源電圧の確認と注意



設置場所の電源電圧が常に下記の範囲にある事を、AC 電圧計などにより確認してください。

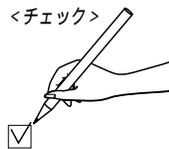
100 ± 10 V

注意：

電源電圧が上記の範囲外で本体を起動させた場合、正常に動作しないだけでなく、内蔵のシステムハードディスクにプリインストールされたプログラムソフトやデータを破壊するおそれがあります。

電源事情の悪いところで使用される場合には、「無停電安定化電源」等のご使用をお薦めします。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

## 1-3 . ケーブル接続の注意 (後面)



下記の点に注意して、本体後面に付属のケーブル類を接続します。  
取扱説明書の後面接続図を見ながら、作業する事をお薦めします。  
(取扱説明書 17 ページ参照)

キーボードを接続する。

マウスを接続する。

本体後面のコネクター名称にて、キーボードとマウスを逆に接続していない事を確認する。

電源コードを本体側に接続する。

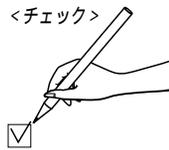
電源コードを止め金具で固定する。

電源プラグは、まだ電源コンセントに差し込まない。

---

---

## 1-4 . 周辺機器の接続とレイアウトの注意



下記の点に注意して、本製品にパーソナルコンピューター用モニター、ビデオモニター（映像確認用）等の周辺機器を接続します。

取扱説明書の後面接続図を見ながら、作業する事をお薦めします。

（取扱説明書 18 ~ 21 ページ参照）

なお、周辺機器の取り扱いについては、それぞれの製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

周辺機器の接続は、本製品、周辺機器とも電源「オフ」の状態で行う。

本製品を移動する場合は、電源「オフ」の状態で行う。

電源「オン」状態では、移動させないでください。

本製品は、平らで固い場所に設置する。

設置時に、本体後面より突き出たコネクタやケーブルが、周囲のものに触れないように注意する。

設置時に、キーボードやマウスを落としたり、これらのケーブルが、本製品および周辺機器の下敷きにならないよう注意する。

本製品の上に物を置かない。

本製品内部の通風をよくするため、周囲にはできる限りのすき間を開ける。

本製品の周囲に飲食物を置かない。

食べ物のかけらやこぼした飲み物が、トラブルの原因となります。

パーソナルコンピューター用モニターと本製品との、VGA ケーブルの接続忘れがないか確認する。

ビデオモニターと本製品との、ビデオケーブルの接続忘れがないか確認する。

その他の周辺機器と、本製品との接続忘れがないか確認する。

必要な機器がすべて接続されていることを確認し、本製品および周辺機器の電源プラグを、電源コンセントに差し込む。

外部拡張用 SCSI HDD ドライブを接続するとき：

SCSI I/F ケーブルの両コネクタ付近に、同梱のフェライトコアを取り付けてください。

## 第 2 章 電源起動確認と A V ディスクの検査

---

この章では、本製品の電源スイッチを「オン」にした後の、基本的なハードウェア設定の確認と A V ディスクの基本的な検査について説明します。

本章の確認と検査を実施する際、むやみに電源を「オフ」にしたり、システムリセットしたりすると、システムの設定状態が変わったり、プリインストールされたプログラムソフトやデータが破壊されたりします。

電源の「オフ」およびシステムリセットについては、各項目ごとの説明をご覧ください。

2-1. 電源起動の確認 .....	8
2-2. SCSI デバイス設定の確認 .....	10
2-3. A V ディスクの検査 .....	12

### 2-1 . 電源起動の確認

本製品の電源スイッチを「オン」にすると、本体の基本的なテストが自動的に行われ、その結果がビープ音とパーソナルコンピューター用モニターの表示で確認できます。

パーソナルコンピューター用モニター、ビデオモニター等の周辺機器の電源スイッチを「オン」にした後、本製品の電源スイッチを「オン」にして、起動時に以下の確認を行ってください。

確認の結果、異常が発見された場合は、取扱説明書の「故障かなと思う、その前に」をご覧ください。(取扱説明書 25 ~ 32 ページ参照)

パーソナルコンピューター用モニター表示の確認時間がわずかなため、実際に作業を開始する前に、この項全体と、付録 A . 「BIOS 画面表示」に通目を通し、チェック内容を理解しておく、確認作業が容易に行えます。(34 ~ 38 ページ参照)

なお、モニターの調節など周辺機器の取り扱いについては、それぞれの製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

#### 注意：

万一、起動途中に確認すべきモニターの表示を見逃した場合は、確認のため本体を再起動する必要があります。

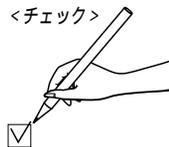
この際、起動途中のモニターの表示が「ブルーのバックに白抜き文字」状態の間は決して電源を「オフ」にしたり、システムリセットをしないでください。

一度、Windows NT のフラグが表示されるまで待ってから、本体前面のシステムリセットスイッチで再起動してください。

---

## 本体全面のLEDの確認

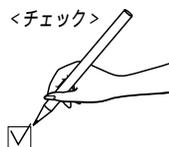
<チェック>



電源「オン」時のディスクアクセスランプ (2 個) の点灯・点滅を確認。

## 起動中のパーソナルコンピュータ用モニターの表示(BIOS 起動画面)の確認

<チェック>



メモリー容量の値 (標準 256MB) は正常か?

CD-ROM のドライブ名は表示 (表示は一瞬) されたか?

システムハードディスクのディスク名は表示されたか?  
(付録 A. BIOS 画面表示を参照)

SCSI カード名は表示されたか?  
(付録 A. BIOS 画面表示を参照)

SCSI ディスク名は全て表示されたか?  
(付録 A. BIOS 画面表示を参照)

PCI デバイスリストは表示されたか?  
(付録 A. BIOS 画面表示を参照)

---

---

## 2-2 . SCSI デバイス設定の確認

この項では、SCSI-BIOS ツールを使って、SCSI デバイスの設定状態を確認します。

実際に作業を開始する前に、付録 B. 「SCSI-BIOS Tool」の項目 B-1 ~ B-3 に一通り目を通し、この項のチェック項目に該当する部分の設定状態の表示方法を理解しておく、確認作業が容易に行えます。

(39 ~ 43 ページ参照)

特に、項目 B-3 の次の部分の理解が必要です。

- (1) SCSI デバイスコンフィギュレーションの確認
- (2) SCSI ID の確認

確認の結果、設定が異なる項目が発見された場合は、付録 B. の項目 B-3 の

### SCSI デバイスのパラメータが異なる場合

の解説および、取扱説明書の「故障かな?と思う前に」をご覧ください。

(取扱説明書 25 ~ 32 ページ参照)

この項の確認が正常に終了した場合は、SCSI-BIOS Tool を終了せずに、次の項目「2-3. AV ディスクの検査」に進んでください。

1. 前項、「2-1 . 電源起動の確認」の一連の確認が正常に終了後、一度本機を再起動します。

注意：

この際、前項の確認後の起動過程の画面表示が「ブルーのバックに白抜き文字」状態まで進んでいた場合は、表示状態が変わるまで決して電源を切ったり、システムリセットをしないでください。

このような場合は、画面に Windows のフラグ (旗) が表示されるまで待つてから、リセットスイッチで再起動を行ってください。

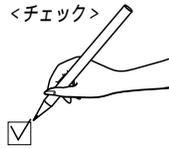
2. 付録 B の項目 B-3 に従って「SCSI デバイスコンフィギュレーションの確認」と「SCSI ID の確認」を行います。

(40、41 ページ参照)

---

---

## SCSI デバイスコンフィグレーションの確認 (1) (ch A、ch B とも確認する)



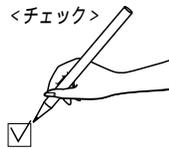
- SCSI Channel Interface Definitions の確認

Host Adapter SCSI ID の設定は「7」か?

SCSI Parity Checking の設定は「Enable」か?

Host Adapter SCSI Termination の設定は「Automatic」か?

## SCSI デバイスコンフィグレーションの確認 (2) (ch A、ch B とも確認する)



- SCSI Device Configuration の SCSI-ID #0 ~ #15 全てのデバイスのパラメータの確認  
(全デバイスのパラメータが、以下のようにになっていることを確認する)

Maximum Sync Transfer Rate の設定は「160」か?

Initiate Wide Negotiation の設定は「yes」か?

Enable Disconnection の設定は「yes」か?

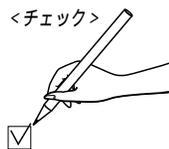
Send Start Unit Command の設定は「yes」か?

Enable Write Back Cache の設定は「N/C」か?

BIOS Multiple LUN Support の設定は「no」か?

Include in BIOS Scan の設定は「yes」か?

## SCSI ID の確認 (ch A、ch B とも確認する)



SCSI ID # 7 に「Adaptec SCSI Card 39160」が表示されているか?

---

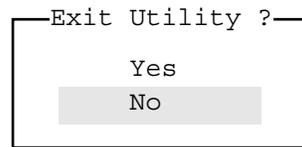
---

## 2-3 . AV ディスクの検査

この項では、引き続き SCSI-BIOS ツールを使って、AV ディスクの検査を行います。

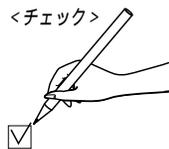
この検査により、AV ディスクの記録メディアとしての欠陥の有無が調べられます。(この検査を全て行うと、約 2 時間の時間を要することがあります。)

1. 画面表示を検査メニューの選択に戻すために、以下のメッセージボックスが表示されるまで、数回「Esc」キーを押してください。



2. 「No」を選択後、「Enter」キーを押して表示に従い、デバイスチャンネル (ch A、ch B) の選択画面に戻ってください。
3. 付録 B. 「SCSI-BIOS Tool」の項目 B-3 「(3) ディスクメディアの検査方法」に従って、各ディスクの検査を行ってください。

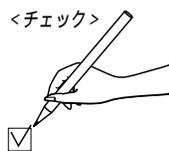
### Ch A SCSI ディスクの確認



SCSI ID #1 のディスクの「Verify Disk」は「Disk Verification Complete」で終了したか？

SCSI ID #2 のディスクの「Verify Disk」は「Disk Verification Complete」で終了したか？

### Ch B SCSI ディスクの確認



SCSI ID #0 のディスクの「Verify Disk」は「Disk Verification Complete」で終了したか？

SCSI ID #1 のディスクの「Verify Disk」は「Disk Verification Complete」で終了したか？

SCSI ID #2 のディスクの「Verify Disk」は「Disk Verification Complete」で終了したか？

4. 各ディスクの検査が全て正常終了した場合は、付録 B. の項目 B-4 を参照して、SCSI-BIOS Tool を終了してください。(44 ページ参照)

## 第3章 ディスク関連の環境設定確認

---

この章では、本製品が使用している OS、Windows NT のスタートアップ画面での、ディスク関連の設定確認と、AV ディスクが本システムで使用可能な状態かどうかの検査について説明します。

この章の検査は、全て本機の電源起動後、Windows NT のスタートアップ画面が正常に表示されてから行うものです。

Windows NT のスタートアップ画面が表示される以前の確認や検査については、本マニュアルの第 1 章、第 2 章をご覧ください。

3-1. ディスク設定の確認 .....	13
3-2. AudioPool & VideoPool & TitlePool ディレクトリの確認 ...	15

### 3-1 . ディスク設定の確認

前章までの一連の確認が正常に終了した後、この項の確認を行います。

この際、本機の状態が、電源起動の一連のシーケンスを完了し、画面にログイン待ちのダイアログが表示されている場合は、ダイアログの指示に従って Windows NT へのログインを完了しておいてください。

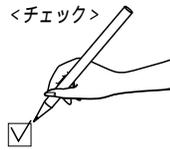
この項では、Windows NT ログイン後のスタートアップ画面で、Windows NT の管理ツールであるディスクアドミニストレータを使用し、ディスク設定の確認を行います。

実際に作業を開始する前に、付録 C . 「Windows NT 付属のディスクアドミニストレータの使用法」の項目 C-1 ~ C-3 に一通り目を通し、この項のチェック項目に該当する部分の設定状態の表示方法を理解しておく、確認作業が容易に行えます。(45、46 ページ参照)

確認の結果、設定が異なる項目が発見された場合は、付録 C . の該当部分のマークの解説および、取扱説明書の「故障かな?と思う前に」をご覧ください。(取扱説明書 25 ~ 32 ページ参照)

- 
- 
- 付録 C の項目 C-2 に従って、デバイスアドミニストレータを起動します。  
(45 ページ参照)

### ディスクアドミニストレータによる ディスクボリューム関連のステータス情報確認



ディスク (CD-ROM を除く) は、全部で 6 台表示されているか?

CD-ROM ドライブが 1 台表示されているか?

ディスク 0 のドライブ名は「C:」と「D:」になっているか?

ディスク 0 のフォーマット形式は、「C:」「D:」共に「NTFS」になっているか?

ディスク 1 ~ 4 のドライブ名は「O:」になっているか?

ディスク 5 のドライブ名は「L:」になっているか?

ディスク 1 ~ 5 のフォーマット形式は、「RTLFS」になっているか?

CD-ROM のドライブ名は、「E:」になっているか?

この項の確認が正常に終了した場合は、付録 C の項目 C-6 に従ってディスクアドミニストレータを終了します。

---

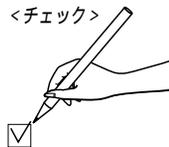
---

## 3-2. AudioPool & VideoPool & TitlePool ディレクトリの確認

この項では、Windows NT のスタートアップ画面で、Windows NT エクスプローラを使用し、「AudioPool」「VideoPool」「TitlePool」のディレクトリ作成の確認を行います。

1. Windows NT 上で、起動中のアプリケーション等があればそれを終了し、Windows NT のスタートアップ画面から作業を開始します。
2. [スタート] メニューより、[プログラム] ▶ [Windows NT エクスプローラ] をクリックして、起動します。
3. 分割された左側のウィンドウで、「マイコンピュータ」の下にある「RTLFS-Volume(L:)」ドライブをクリックします。

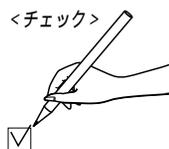
分割された右側のウィンドウ内に表示されるディレクトリ名を確認する。



ドライブ「L : 」に「AudioPool」ディレクトリ (L: ¥AudioPool) があるか？

4. 分割された左側のウィンドウで、「マイコンピュータ」の下にある「RTLFS-Volume(O:)」ドライブをクリックします。

分割された右側のウィンドウ内に表示されるディレクトリ名を確認する。

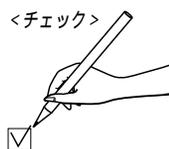


ドライブ「O : 」に「VideoPool」ディレクトリ (O: ¥VideoPool) があるか？

ドライブ「O : 」に「system」ディレクトリ (O: ¥system) があるか？

5. 分割された左側のウィンドウで、「マイコンピュータ」の下にある「System2(D:)」ドライブをクリックします。

分割された右側のウィンドウ内に表示されるディレクトリ名を確認する。



ドライブ「D : 」に「TitlePool」ディレクトリ (D: ¥TitlePool) があるか？

6. 上記確認が正常に終了したら、エクスプローラウィンドウ右上の  をクリックして、「Windows NT エクスプローラ」を終了し、Windows NT のスタートアップ画面に戻ります。

## 第4章 プリインストールソフトでの動作確認

---

この章では、本機の設置後、プリインストールされている機能限定版編集ソフトを使用して、本機ハードウェアの総合動作確認を行う方法について説明します。

注意：

この章の確認が終了するまで、編集ソフトのインストールは行わないでください。プリインストールされた機能限定版編集ソフトが、動作しなくなる場合があります。

この章の確認は、全て本機の電源起動後、Windows NTのスタートアップ画面が正常に表示されてから行うものです。Windows NTのスタートアップ画面が表示される以前の確認や検査については、本マニュアルの第1章、第2章をご覧ください。

外部VTRを使用する場合は、実際に作業を開始する前に、あらかじめ外部入出力機器をコンポーネントとコンボジットの両方に接続しておいてください。

4-1. アップロード動作の確認 .....	16
4-2. 編集機能の確認 .....	24
4-3. ダウンロード動作の確認 .....	30

### 4-1 . アップロード動作の確認

前章までの一連の確認が正常に終了した後、この項の確認を行います。

この項では、Windows NTログイン後のスタートアップ画面で、プリインストールされた機能限定版編集ソフトを使用し、アップロード動作の確認を行います。

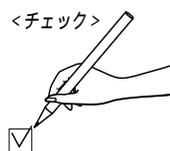
確認の結果、設定が異なる項目が発見された場合は、付録Cの該当部分のマークの解説、および、取扱説明書の「故障かな?と思う前に」をご覧ください。(取扱説明書25～32ページ参照)

1. Windows NTのスタートアップ画面にて、「Panasonic NLE System」アイコン(下図)をダブルクリックし、機能限定版編集ソフトを起動します。(起動まで、十数秒かかることがあります。)

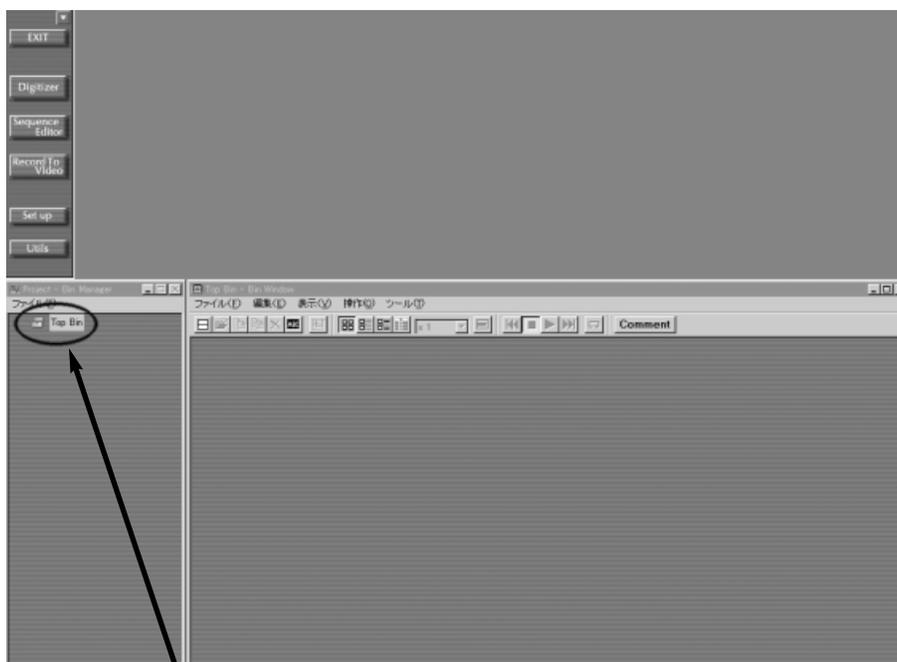


---

2. 下図のような画面が表示されます。



機能限定版編集ソフトの起動により、下図の画面が表示されましたか？

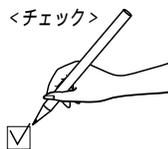


TopBinのBinウィンドウが開かれていないときは、TopBinをダブルクリックしてください。



3. 画面左上のToolboXより **Digitizer** ボタンをクリックして、デジタイザーを起動します。

### VTRコントロールのチェック



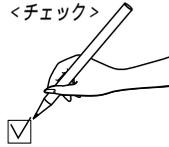
下図のようなデジタイザーウィンドウが表示されたか？



デジタイザーウィンドウの左上には、VTR等のDevice選択用のリストボックスがあります。

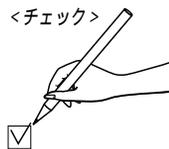
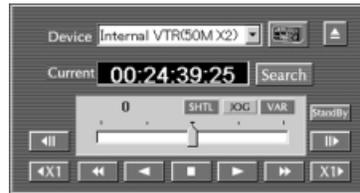
Deviceを変更することで、コントロールするVTR装置を変更できます。





デジタイザーウィンドウの Device 表示は、「Internal VTR (50Mx2)」になっているか？

4. Device に「Internal VTR (50Mx2)」が表示されない場合は、リストボックス右端の  マークをクリックしてデバイスリストを表示させ、本機の内蔵 VTR である「Internal VTR (50Mx2)」を選択します。
5. 本機の内蔵 VTR に、映像の記録された DVCPRO テープを挿入し、ローディング完了を待ちます。
6. デジタイザーウィンドウ上の VTR 操作ボタンを使って、内蔵 VTR によるテープ再生を行います。  
デジタイザーウィンドウの下図の部分が VTR 操作ボタンで、ボタン部分をマウスでクリックすると、各ボタンに対応した操作を受付けます。



 ボタンのクリックで、内蔵 VTR の 50M 2 倍速モード再生が開始されたか？

ビデオモニターで、内蔵 VTR の再生出力を目視で確認します。

正常に記録されたテープを再生した場合、内蔵 VTR の 50M 2 倍速モード再生の映像にノイズや映像の乱れはないか？

音声の 2 倍速再生はされているか？

内蔵 VTR の 50M 2 倍速モード再生ができる事を確認したら、続いてアップロード動作の確認を行います。

デジタイザーウィンドウの下図の部分、アップロードの操作ボタンです。



7. 内蔵 VTR を 50M 2 倍速モード再生状態にして  ボタンをクリックすると、内蔵 VTR の再生データが、内蔵の AV ディスクへアップロードされ始めます。
8. アップロードを終了するには、 ボタンをクリックします。
9.  ボタンのクリックで、アップロードを完了したクリップのアイコンが自動的に作成され、BIN の中に新たに登録されます。
10. 内蔵 VTR を 50M 2 倍速モード再生状態のまま、 ボタンをクリックすると、次のアップロードが始まり、 ボタンのクリックでアップロードが終了して、新しいクリップのアイコンが BIN に自動的に登録されます。  
クリップが DVCPRO 50M フォーマットの場合、登録されたクリップのアイコンのまわりが青色で囲まれます。25M フォーマットの場合は、アイコンのまわりが黄色で囲まれます。
11. この手順を繰り返して、複数のクリップを AV ディスク上にアップロードします。

全クリップのアップロード完了後、必ず、内蔵 VTR の 50M 2 倍速モード再生を終了し、テープを取り出して下さい。

内蔵 VTR の停止ボタンは、デジタイザーウィンドウの下図の部分にあります。

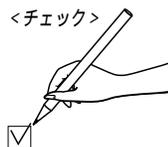


12. 上図の  ボタンをクリックすると、内蔵 VTR が停止します。
13. EJECT は、 ボタンのクリックで行います。

---

## アップロード動作確認時の注意

アップロード動作確認中は、デジタイザーウィンドウ以外の部分をクリックしないで下さい。アップロード動作を正しく確認できない場合があります。



 ボタンのクリックで、“RecStart”文字部分の色が変化したか？

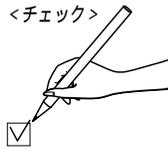
 ボタンのクリックで、 ボタンの“RecStart”文字部分の色が白色になったか？

 ボタンのクリックで、アップロードを完了したクリップのアイコンが、BINの中に新たに登録されたか？

全クリップのアップロード完了後、内蔵VTRの  ボタンクリックで、内蔵VTRの50M 2倍速モード再生が停止したか？  
ビデオモニターで、内蔵VTRの再生出力を目視で確認します。

以上で、内蔵VTRのアップロード動作は完了です。  
次に、アップロードしたデータの再生確認を行います。

14. アップロードしたデータの再生は、BIN に登録されたクリップをクリック (選択) した後、スペースキーの入力で実行できます。
15. クリップの再生映像は、ビデオモニターにて確認して下さい。
16. 選択クリップの終わり、再生は自動停止します。  
途中で再生を停止するには、スペースキーを再度入力します。



BIN の各登録クリップは、クリックすると選択色状態になるか?

スペースキーを押すと、選択クリップが再生 (1 倍速) されるか?

スペースキーを再度押すと、選択クリップが停止するか?

選択クリップの再生 AV に、ノイズや乱れがないか?

再生映像は、ビデオモニターで各クリップについて全て確認します。

以上で、内蔵 VTR 50M 2 倍速モードに対するアップロード動作の確認と、アップロードデータの確認は終了です。

他に、

- Internal VTR ( 50Mx1 ) : 内蔵 VTR 50M 1 倍速
- Internal VTR ( 25Mx4 ) : 内蔵 VTR 25M 4 倍速
- Internal VTR ( 25Mx1 ) : 内蔵 VTR 25M 1 倍速

のアップロード確認をする場合は、VTR コントロールパネルの表示デバイスをそれぞれ「Internal VTR ( 50Mx1 )」、「Internal VTR ( 25Mx4 )」、「Internal VTR ( 25Mx1 )」に選択し直し、「Internal VTR ( 50Mx2 )」と同様に、これまでの確認を行ってください。

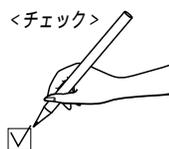
また、外部 VTR を接続するシステムや、マイクロフォンでのアップロードを行うシステムの場合も、下記の表にあるような表示デバイス名を VTR コントロールパネルで選択し直し、これまでと同様の確認を行ってください。なお、機能限定版編集ソフトでは、下記の表のように入出力信号、アップロード時のデータフォーマット、RS-422 のポートが設定されております。この設定に従って、信号線をつなぎ、確認して下さい。

表示デバイス名	Video 入力	Audio 入力	アップロード時のデータフォーマット	RS-422 端子
External VTR 1	コンポジット	アナログ	DVCPRO	ポート 1
External VTR 2	コンポーネント	デジタル	DVCPRO 50	ポート 1
External VTR 3	SDI	SDI 埋め込み	DVCPRO 50	ポート 2
Microphone	- - -	本機前面のマイク入力端子を使用	- - -	- - -

---

---

## 外部VTRやマイクフォンによるアップロードでの事前確認項目



RS-422A ケーブルは、本機と外部VTRの間で正しく接続されているか？

接続方法は、各々の取扱説明書を参照して下さい。

外部VTRはリモート制御可能な設定になっているか？

設定方法は、外部VTRの取扱説明書を参照して下さい。

本機、機能限定版編集ソフトのデジタイザーウィンドウにおいて、正しいデバイス名が表示されているか？

17. 以上、外部VTRでのアップロードの動作確認（必要な場合のみ）が正常に終了した後、Digitizerウィンドウの右上のをクリックして、Digitizerウィンドウを閉じます。

次項でも機能限定版編集ソフトを使用するため、Tool-Boxは終了しないで下さい。

## 4-2 . 編集動作の確認

この項では、引続き機能限定版編集ソフトを用いて編集動作の確認を行います。編集動作の確認には、予めAVディスクへアップロードした複数のクリップを用います。

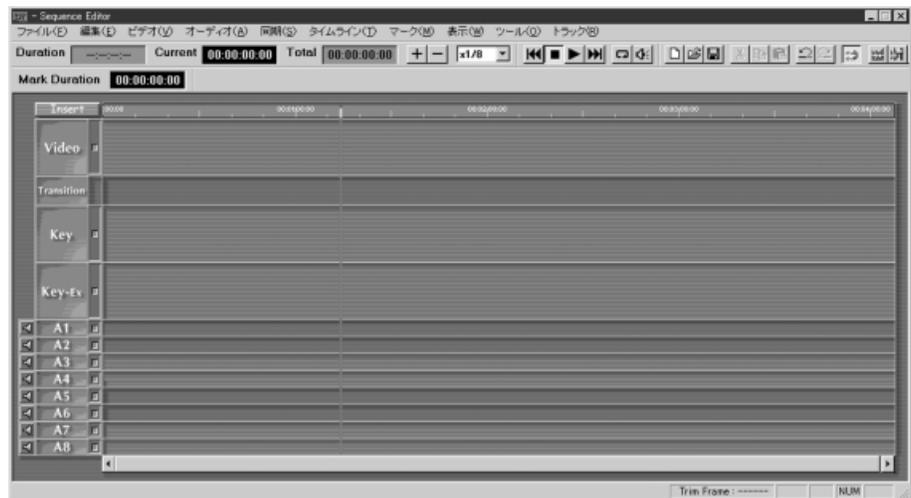
BINに登録したクリップを消してしまった場合は、前項(4-1.)に戻り、複数のクリップを作成し、各クリップにノイズや乱れが無いかが再生、確認しておいて下さい。

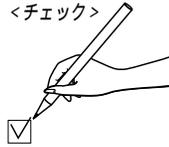


編集動作の確認には、シーケンスエディタを使用します。

1. ToolboXより **Sequence Editor** ボタンをクリックして、シーケンスエディタを起動します。

シーケンスエディタが起動すると、次のような画面が表示されます。

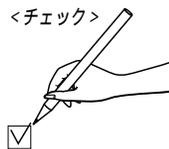
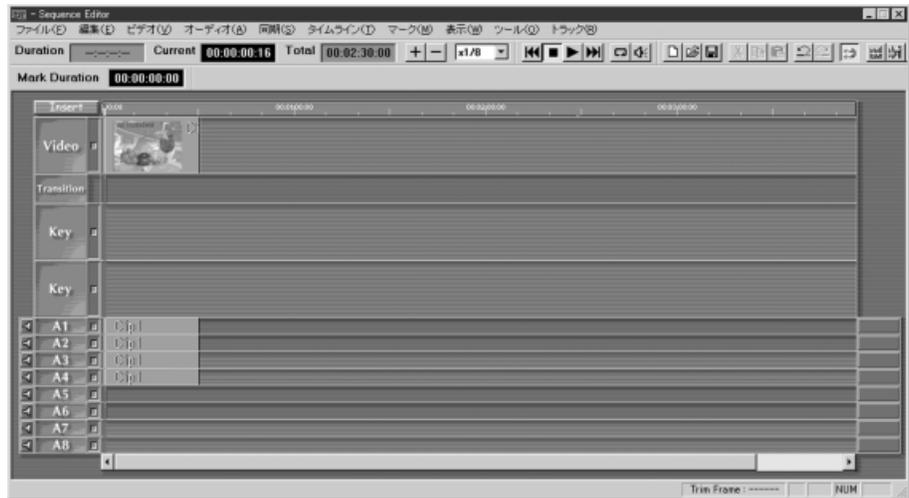




ボタンのクリックでシーケンスエディタの画面は表示されたか？

2. シーケンスエディタを起動した後、BIN に登録されたクリップをビデオトラックへドラッグ&ドロップしてビデオシーケンスを作成します。

ドロップされたクリップは、その長さに応じた矩形で表示され、矩形の左端にはクリップのアイコンが表示されます。下図にその表示例を示します。



ビデオトラックへの、クリップのドラッグ&ドロップはできたか？

3. 同様にして、複数のクリップをビデオトラックへドラッグ&ドロップして、ビデオシーケンスを作成します。  
ビデオトラック上のクリップは、自動的に色分けされます。



クリップがシーケンスエディタ画面をはみ出す場合は、ウィンドウの上部にある +、- ボタンをクリックして、時間軸の変更を行います。- ボタンでクリップの表示長さを縮小することができます。

ドラッグ&ドロップだけで作成されたビデオシーケンスは、自動的にカット編集状態になります。各クリップは自動的に透き間無く配置され、そのつなぎ目には **CUT** マークが表示されます。

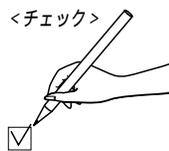
### < ノート >

機能限定版編集ソフトは、シーケンスエディタ上におけるクリップの個数が30個までに制限されています。これには、オーディオトラック上のクリップも含まれます。

例えば、DVCPRO50Mフォーマットのクリップ（一般的には、ビデオとオーディオ4CH）の場合は、それだけで5個とカウントされます。

また、シーケンスエディタの仕様として、DVCPRO 50MとDVCPRO 25Mのクリップの混在は認められておりませんので、複数クリップのビデオシーケンスを作成する場合は、同一フォーマットのデータで行ってください。

下図に、2つのクリップで構成されたビデオシーケンスの表示例を示します。



ビデオトラックへの、複数個のクリップのドラッグ&ドロップはできたか？

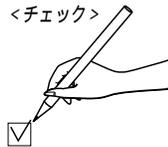
各クリップのつなぎ目部分には、上図のような **CUT** マークが表示されているか？

ビデオシーケンスを作成した後は、その再生確認を行います。



再生操作は、シーケンスエディタウィンドウの上部にある操作ボタン (左図) で行います。

4.  ボタンをクリックして、再生開始位置をビデオシーケンスの先頭に移動します。
5.  ボタンのクリックで、ビデオシーケンスの再生が開始されます。
6. 再生映像は、ビデオモニターに出力されます。
7. ビデオシーケンスの再生中は、再生位置がビデオトラックにカーソル表示されます。
8. ビデオシーケンスの終わりで、再生は自動終了します。
9. 再生を中断するには、 ボタンをクリックします。



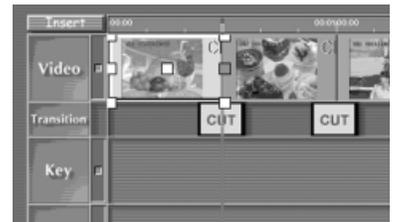
 ボタンのクリックでビデオシーケンスの再生が開始されたか？

 ボタンのクリックでビデオシーケンスの再生が停止するか？

ビデオシーケンスの再生 AV には、ノイズや乱れがないか？  
ビデオモニターで、再生映像を目視で確認します。

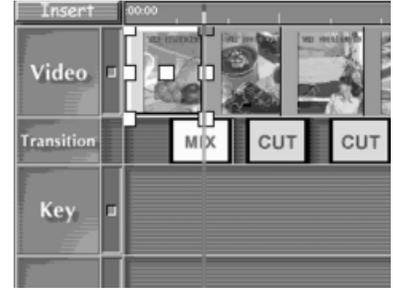
次に、映像効果 (Effect) を利用した、映像 2CH 同時再生の動作確認を行います。

10. ビデオトラックへ複数のクリップが置かれたビデオシーケンスにおいて、最初のクリップをマウスでクリックします。



11. 右図のように、「グリッド」と呼ばれる四角の点はそのクリップ上に表示されます。
12. そのグリッドの中で、右側真ん中の段のグリッドをマウスクリックで選択します。  
マウスはクリックしたままにしておきます。(ドラッグ状態)
13. 選択されたグリッドは、白色から赤色に変わります。
14. 赤色に変わったそのグリッドをドラッグしたまま、左側へ移動させ、適当な位置でマウスのクリックを解除します。  
(対象のクリップのデュレーションが短くなります。)

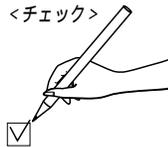
- 次に、今、操作したクリップの左端のグリッドをマウスクリックで選択します。  
マウスはクリックしたままにしておきます。(ドラッグ状態)



- 選択されたグリッドは、白色から赤色に変わります。

- 赤色に変わったそのグリッドをドラッグしたまま、右側へ移動させ、適当な位置でマウスのクリックを解除します。

- 先頭のクリップと2番目のクリップのつなぎ目が上図のように「MIX」マークに変化します。(デフォルトで映像効果はディゾルブになります。)



各クリップのつなぎ目部分が、上図のような「MIX」マークに変化したか？

- 必要に応じて、他のクリップに対しても 11 ~ 18 の手順に従って、ビデオシーケンスに映像効果を入れて下さい。

映像効果の入ったビデオタイムラインの一例を示します。

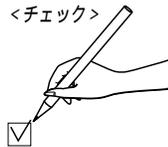


ビデオシーケンスを作成した後は、その再生確認を行います。



再生操作は、シーケンスエディタウィンドウの上部にある操作ボタン (左図) で行います。

20.  ボタンをクリックして、再生開始位置をビデオシーケンスの先頭に移動します。
21.  ボタンのクリックで、ビデオシーケンスの再生が開始されます。
22. 再生映像は、ビデオモニターに出力されます。
23. ビデオシーケンスの再生中は、再生位置がビデオトラックにカーソル表示されます。
24. ビデオシーケンスの終わりで、再生は自動終了します。
25. 再生を中断するには、 ボタンをクリックします。



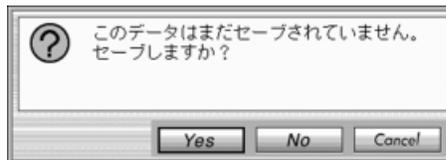
 ボタンのクリックでビデオシーケンスの再生が開始されたか？

 ボタンのクリックでビデオシーケンスの再生が停止するか？

ビデオシーケンスの再生 AV には、ノイズや乱れがないか？  
ビデオモニターで、再生映像を目視で確認します。

ビデオシーケンスでの編集動作の確認が完了した後、作成したビデオシーケンスは破棄します。

26. シーケンスエディタウィンドの右上にある  マークをマウスでクリックします。
27. 図のようなウィンドが表示されます。



28.  ボタンをクリックして、シーケンスエディタを終了します。

以上で、編集動作の確認は終了です。

次項でも機能限定版編集ソフトを使用するため、Tool-Box は終了しないで下さい。

### 4-3 . ダウンロード動作の確認

この項では、引き続き機能限定版編集ソフトを用いてダウンロード動作の確認を行います。

ダウンロード動作の確認には、あらかじめデジタイザでアップロードし、BIN に登録されたクリップを用います。(使用するクリップに、ノイズや乱れがないことをご確認しておいて下さい。)

本機内蔵のVTRには、テスト記録可能なカセットをあらかじめ、ローディングしておきます。

< ノート >

ダウンロード動作の確認には、必ずクリップを使用して下さい。

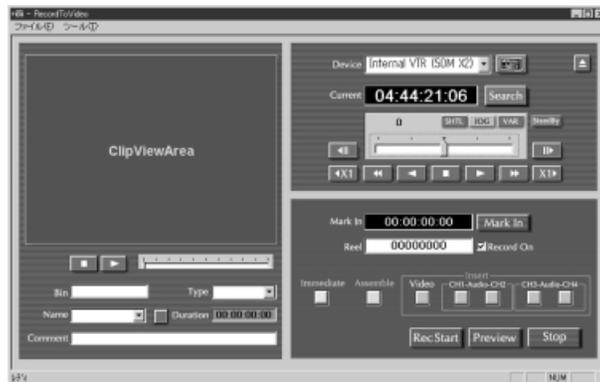
( 4-2 ) 項でのビデオシーケンスをダウンロードすると、正常にテープへ記録できません。

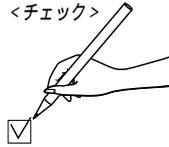


ダウンロード動作の確認には、Record To Video ツールを使用します。

1. ToolboX より Record To Video ボタンをクリックして、Record To Video ツールを起動します。

Record To Video ツールが起動すると、次のような画面が表示されます。

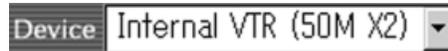




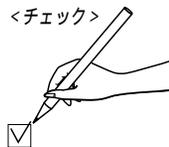
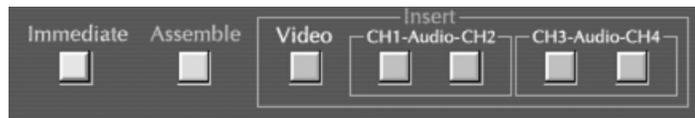
**Record To Video** ボタンのクリックで Record To Video ツールの画面は表示されたか？

本機の内蔵 VTR に、テスト記録可能なテープをローディングしているか？

Device の表示は、「Internal VTR ( 50Mx2 )」になっているか？

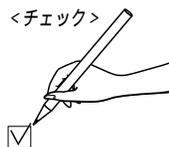


- Record To Video ウィンドウの Device に「Internal VTR( 50Mx2 )」が表示されていない場合は、リストボックスの右端の ▾ マークをクリックして、デバイスリストを表示させ、本機の内蔵 VTR である「Internal VTR ( 50Mx2 )」を選択します。
- Record To Video ウィンドウの記録モード選択を示す選択ボタンの「Immediate」を選択（クリック）します。



記録モード選択ボタンの「Immediate」は、水色の表示になっているか？

- BIN に登録されている DVCPRO 50M のクリップ（アイコンのまわりが青色のクリップ）をマウスでドラッグし、Record To Video ウィンドウ上の Clip View Area へドロップします。
- Clip View Area にドロップされたクリップの先頭フレームの画像が、そのエリアに表示されます。



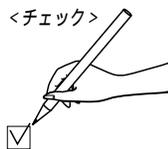
Clip View Area に、対象クリップの先頭フレームの画像が表示されているか？

- 
6. RecToVideo ウィンド内の **Rec Start** ボタンをクリックして、ダウンロードを開始します。ボタン内の「RecStart」という文字部分が赤色に変わります。



ダウンロード中の映像は、ビデオモニターで確認できます。

ダウンロードが完了すると、**Rec Start** ボタンの「RecStart」という文字部分が元の色に戻ります。



ダウンロード開始の **Rec Start** ボタンのクリックで、「RecStart」の文字部分が赤色に変わったか？

ダウンロードしたクリップの映像が、ビデオモニターに表示されたか？

ダウンロード完了後、**Rec Start** ボタンの文字部分が元の色に戻ったか？

以上の内容が正常に行われると、ダウンロードが完了したことになります。

次にダウンロード後のテープを再生し、その記録結果を確認します。

< ノート >

RecordToVideo ウィンドの Device が「Internal VTR ( 50Mx2 )」の場合、RecordToVideo ウィンド内の  ボタンでテープを再生すると、ビデオモニター上には、1 フレームずつ飛んだ映像が表示されます。

また、本機で DVCPRO50M テープを  ボタンで 1 倍速の Preview 再生を行う場合、テープの記録トラックに対するヘッドのトラック制御を行っていないので、正しく記録されたデータであっても、再生時にノイズや乱れを生じる場合があります、ダウンロードの確認には適しません。

なお、DVCPRO 25M テープの 1 倍速 Preview 再生は、正常に再生できません。

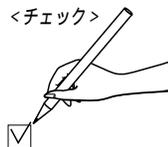
従って、DVCPRO 50M テープを正常に再生させる場合は、本機を 50M 1 倍速モードにして、再生させる必要があります。

本機を 50M 1 倍速モードにするには、デジタイザまたは、RecordToVideo ウィンド内の Device で「Internal VTR ( 50Mx1 )」を選択します。

7. RecordToVideo ウィンド内の Device のリストボックスで、右端にある  マークをクリックして、デバイスリストを表示させ、「Internal VTR ( 50Mx1 )」を選択します。
8. RecordToVideo ウィンド内の VTR コントロールパネルで、内蔵 VTR を操作し、テープ上のダウンロード映像開始点付近まで戻します。



9. VTR コントロール内の  ボタンをクリックして、テープの内蔵 VTR の 1 倍速再生を行い、ダウンロードデータの確認を行います。
10. 再生映像は、ビデオモニターに出力されます。
11. 再生を停止させるときは、 ボタンをクリックします。



<チェック>

- ボタンのクリックで、テープの 1 倍速再生が開始したか？
- ボタンのクリックで、テープの 1 倍速再生が停止したか？

テープの再生映像には、ノイズや乱れはないか？  
ビデオモニターで、再生映像を目視で確認します。

以上で、内蔵 VTR 50M 2 倍速モードに対するダウンロード動作の確認と、ダウンロードデータの確認は終了です。

他に、

- Internal VTR ( 50Mx1 ) : 内蔵 VTR 50M 1 倍速
- Internal VTR ( 25Mx4 ) : 内蔵 VTR 25M 4 倍速

のダウンロード確認をする場合は、VTR コントロールパネルの表示デバイスをそれぞれ「Internal VTR ( 50Mx1 )」、「Internal VTR ( 25Mx4 )」に選択し直し、「Internal VTR ( 50Mx2 )」と同様に、これまでの確認を行ってください。

<ノート>

製品版ノンリニア編集ソフトウェア AJ-SF97 をインストールする際は、お買い上げの販売店にご相談ください。

# 付 録 A . BIOS 画面表示

---

## A-1 . 起動時の BIOS 情報表示について

本機に電源を投入した直後、パーソナルコンピュータ用モニターに表示される BIOS 情報には、次のようなものがあります。  
これらの表示内容のチェックにより、本機 PC ユニットハードウェアの基本的な検査ができます。

- (1) Award Modular BIOS のバージョン
- (2) CPU の種別
- (3) メインメモリー容量 (メモリーテスト完了時)
- (4) システムディスクの取得ステータス (システムディスク名)
- (5) CD-ROM ドライブの取得ステータス (CD-ROM ドライブ名)
- (6) SCSI カード (ASC-39160) の SCSI-BIOS 起動情報
- (7) SCSI-HDD (5 台分) の接続情報
- (8) PCI デバイス情報

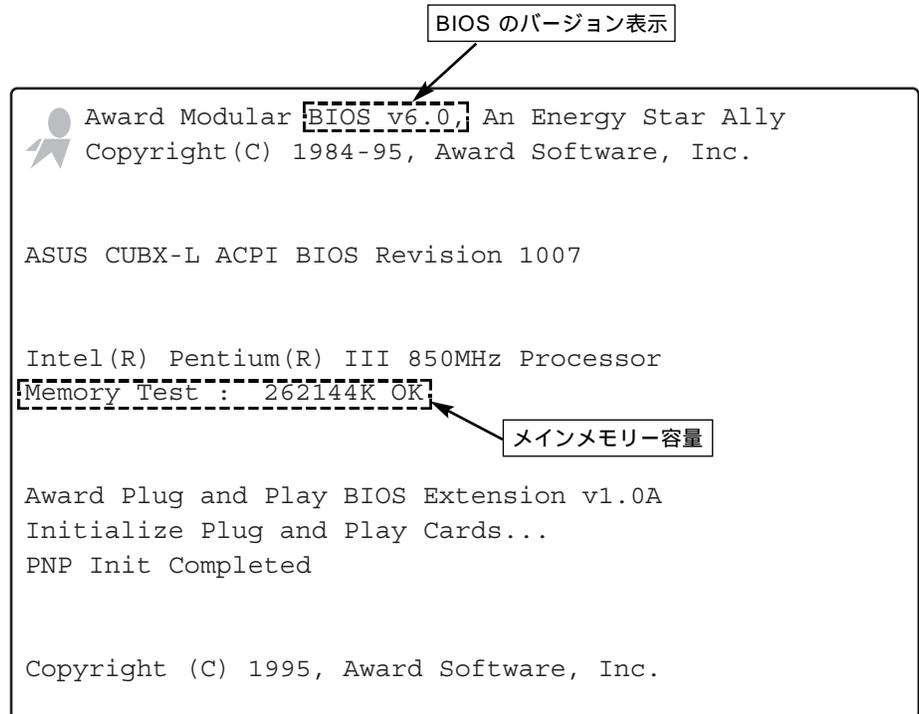
## A-2 . PC ユニットの BIOS 情報チェックの詳細

本書の第 2 章「2-1. 電源起動の確認」において、本機に電源を投入した直後、パーソナルコンピュータ用モニターに表示にて確認する内容は、次の 6 項目です。各項目ごとに、画面のどの部分をチェックすればよいかを説明します。

- (1) メインメモリー容量
- (2) CD-ROM ドライブ名
- (3) システムディスク名
- (4) SCSI カード名
- (5) SCSI ディスク名 (5 台分)
- (6) Plug & Play (PnP) デバイスリスト

## (1) メインメモリー容量

下記の図は、PC部のメインメモリー (容量：256MB) のチェックが、正常に終了した後に表示される画面です。  
メインメモリーの出荷時の容量表示は、「262144 KB (256MB)」になります。



## (2) CD-ROM ドライブ名と、(3) システムディスク名

下記の図は、CD-ROM ドライブとシステムディスクをチェックし、各デバイスから取得するデバイス情報を表示している画面です。

本機の CD-ROM ドライブは「CR-585」、本機のシステムディスクは IBM 社製の HDD「IBM-DTLA-307030」であることを示しています。

Award Modular BIOS v6.0, An Energy Star Ally  
Copyright (C) 1984-95, Award Software, Inc.

ASUS CUBX-L ACPI BIOS Revision 1007

Intel(R) Pentium(R) III 850MHz Processor  
Memory Test : 262144K OK

Award Plug and Play BIOS Extension v1.0A  
Initialize Plug and Play Cards...  
PNP Init Completed

Copyright (C) 1995, Award Software, Inc.

The Chip Away Virus(R) On Guard

Detecting Primary Master.... **IBM-DTLA-307030**  
Detecting Primary Slave..... MATSHITA **CR-585**  
Detecting Secondary Master.. None  
Detecting Secondary Slave... None

システムディスク名

CD-ROM ドライブ名

The screenshot shows a BIOS boot screen with various system information. Two specific lines are highlighted with dashed boxes and arrows: 'IBM-DTLA-307030' is identified as the system disk name, and 'CR-585' is identified as the CD-ROM drive name.

#### (4) SCSIカード名と、(5) SCSIディスク名 (5台分)

下記の図は、PCIスロットに挿入されているSCSIカード「ASC-39160」のBIOSのインストールと、SCSIカードに接続されたSCSIディスク5台分の情報を表示している画面です。

正常な場合は、図のように5台全ての情報が表示されます。

```
Initialize Plug and Play Cards...
PNP Init Completed

Detecting Primary Master.... IBM-DTLA-307030
Detecting Primary Slave..... MATSHITA CR-585

Adaptec [SCSI Card 39160] SCSI BIOS vX.XX
(c) 1997 Adaptec, Inc. All Rights Reserved.

<<< Press <Ctrl><A> for SCSIselect(TM) Utility! >>>

Ch A,   SCSI ID: 1 IBM DDYS-T18350M 160 - Hard Disk0
        SCSI ID: 2 IBM DDYS-T18350M 160 - Hard Disk1
[Ch B,] SCSI ID: 0 IBM DDYS-T18350M 160 - Hard Disk2
        SCSI ID: 1 IBM DDYS-T18350M 160 - Hard Disk3
        [SCSI ID: 2] [IBM DDYS-T18350M] [160] - Hard Disk4
```

SCSIカード名に39160が含まれていること。

SCSIバス速度「160」が表示されること。

ディスク名の表示が、SCSI ID毎に全て出ること。

SCSI IDが各Ch Aには1と2、Ch Bには0～2までが順番に表示されること。

SCSI chは、A・Bの2chが表示されること。  
Ch Aには2台、Ch Bには3台のディスク表示が出ること。

## (6) PCI デバイスリスト

下記の図は、SCSI デバイス表示の後に画面に表示される、デバイスリストの画面です。下半分は、PCI デバイスリストです。

本機の起動過程では、短時間しか表示されませんので、PCI デバイスリストが表示される事と、Device Class と IRQ の部分が表示される事を確認してください。

CPU Clock	: 850MHz	Cache Memory	: 512K
Diskette Drive A	: 1.44M, 3.5 in.	Display Type	: EGA/VGA
Diskette Drive B	: None	Serial Port(s)	: 3FB 2FB
Pri. Master Disk	: 20576MB, UDMA2	DRAM TYPE	: SDRAM
Pri. Slave Disk	: CD-ROM, MODE 4	SPD On Module(s)	: Yes
Sec. Master Disk	: None	Data Integrity	: Non-ECC
Sec. Slave Disk	: None		

<BIOS:> BIOS update data incorrect (CPUID=00000619), Update not loaded.

PCI device listing.....

Bus No.	Device No.	Func No.	Vender ID	Device ID	Device Class	IRQ
0	4	1	8086	7111	IDE Controller	14/15
0	4	2	8086	7112	Serial bus controller	9
0	11	0	9005	00C0	Mass storage controller	10
0	11	1	9005	00C0	Mass storage controller	5
1	0	0	102B	0525	Display controller	11
2	2	0	123F	8120	Multimedia device	10
2	3	0	1131	5400	Multimedia device	5
2	4	0	1131	5400	Multimedia device	9
3	1	0	1131	5400	Multimedia device	11
3	2	0	123F	8120	Multimedia device	10
3	5	0	102B	8010	Processors	NA

Device Class と IRQ が表示される事を確認すること。

# 付 録 **B** . SCSI-BIOS Tool

---

## B-1 . SCSI-BIOS Tool の概要

SCSI-BIOS Tool では、

- SCSI ホストアダプタの設定の確認や変更
- 他のデバイスと衝突する可能性のある SCSI デバイス設定のチェック

ができます。

## B-2 . SCSI-BIOS Tool の起動方法

1. Windows NT が起動している場合は、「スタート」-「シャットダウン」をクリックして Windows NT を再起動します。  
Windows NT が起動していない場合は、電源を「ON」します。
2. PC の起動中の画面で、以下のメッセージが表示された時、キーボードの「Ctrl」+「A」を押します。

```
Adaptec SCSI Card 39160 SCSI BIOS vX.XX  
(c) 1997 Adaptec, Inc. All Rights Reserved.
```

```
◀◀◀ Press <Ctrl><A> for SCSISelect(TM) Utility! ▶▶▶
```

3. ブルーを基調としたダイアログボックスが開き、以下の選択画面が表示されます。

```
Bus:Device:Channel  
  
00:0B:A  
00:0B:B
```

## B-3 . SCSI-BIOS Tool の使用方法

### (1) SCSI デバイスコンフィグレーションの確認

1. 「**↑**」と「**↓**」の矢印キーを押し、確認したい SCSI チャンネルを高輝度表示し、次に Enter キーを押しして選択します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押し。)
2. 以下の選択画面が表示されるので、「**↑**」と「**↓**」の矢印キーを押し、「Configure/View Host Adapter Settings」の項目を高輝度表示し、「Enter」キーを押しします。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押し。)

```
Options
-----
Configure/View Host Adapter Settings
SCSI Disk Utilities
```

3. 以下の選択画面が表示されるので、「**↑**」と「**↓**」の矢印キーを押し、「SCSI Device Configuration」の項目を高輝度表示し、「Enter」キーを押しします。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押し。)

```
Configuration
-----
SCSI Channel Interface Definitions
Host Adapter SCSI ID..... 7
SCSI Parity Checking..... Enable
Host Adapter SCSI Termination..... Automatic

Additional Options
Boot Device Options..... Press<Enter>
SCSI Device Configuration..... Press<Enter>
Advanced Configuration Options..... Press<Enter>
```

4. SCSI デバイス #0 ~ #15 のパラメータが表示されるので、全デバイスのパラメータが、以下のようにになっていることを確認します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押し。)

```
SCSI Device Configuration
-----
SCSI Device ID          #0  #1  -----  #15
Sync Transfer Rate(MB/sec)... 160 160 ----- 160
Initiate Wide Negotiation.... yes yes ----- yes
Enable Disconnection..... yes yes ----- yes
Send Start Unit Command..... yes yes ----- yes

-Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled-
Enable Write Back Cache..... N/C N/C ----- N/C
BIOS Multiple LUN Support.... no no ----- no
Include in BIOS Scan..... yes yes ----- yes
```

## SCSI デバイスのパラメータが異なる場合

- パラメータを変更して下さい

変更方法は、「`<Left>`」と「`<Right>`」の矢印キーを押して、変更したい項目を高輝度表示します。

次に「Enter」キーを押すと、ポップアップメニューが表示され、選択可能な設定が示されます。

次に選択したい項目を高輝度表示し、「Enter」キーを押して選択します。

### (2) SCSI ID の確認

1. 「`<Left>`」と「`<Right>`」の矢印キーを押し、確認したい SCSI チャンネルを高輝度表示し、次に Enter キーを押して選択します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)
2. 以下の選択画面が表示されるので、「`<Left>`」と「`<Right>`」の矢印キーを押して、「SCSI Disk Utilities」の項目を高輝度表示し、「Enter」キーを押します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)

```
Options
Configure/View Host Adapter Settings
SCSI Disk Utilities
```

3. 以下のような画面が表示されることを確認します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)

```
Select SCSI Disk and press <Enter>
SCSI ID #0 : No Device
SCSI ID #1 : IBM DDYS-T18350M
SCSI ID #2 : IBM DDYS-T18350M
SCSI ID #3 : No device
SCSI ID #4 : No device
SCSI ID #5 : No device
SCSI ID #6 : No device
SCSI ID #7 : Adaptec SCSI Card 39160
SCSI ID #8 : No device
SCSI ID #9 : No device
SCSI ID #10 : No device
SCSI ID #11 : No device
SCSI ID #12 : No device
SCSI ID #13 : No device
SCSI ID #14 : No device
SCSI ID #15 : No device
```

左図は、Ch A の表示です。  
Ch B の場合は、#0 にも  
IBM DDYS-T18350M  
が表示されます。

### デバイス数が足りない場合

- SCSI HDD に電源が接続されていることを確認して下さい。
- SCSI ケーブルが正常に接続されていることを確認して下さい。
- SCSI ID の設定を確認して下さい。

### (3) ディスクメディアの検査方法

1. 「**<**」と「**>**」の矢印キーを押し、確認したいSCSIチャンネルを高輝度表示し、次にEnterキーを押して選択します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)
2. 以下の選択画面が表示されるので、「**<**」と「**>**」の矢印キーを押して、「SCSI Disk Utilities」の項目を高輝度表示し、「Enter」キーを押します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)

```
Options
-----
Configure/View Host Adapter Settings
SCSI Disk Utilities
```

3. 以下のような画面が表示されるので、「**<**」と「**>**」の矢印キーを押して、検査したいSCSIディスク (ID #0 ~ 2) を高輝度表示し、「Enter」キーを押します。(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)

```
Select SCSI Disk and press <Enter>
SCSI ID #0 : No Device
SCSI ID #1 : IBM DDYS-T18350M
SCSI ID #2 : IBM DDYS-T18350M
SCSI ID #3 : No device
SCSI ID #4 : No device
SCSI ID #5 : No device
SCSI ID #6 : No device
SCSI ID #7 : Adaptec SCSI Card 39160
SCSI ID #8 : No device
SCSI ID #9 : No device
SCSI ID #10 : No device
SCSI ID #11 : No device
SCSI ID #12 : No device
SCSI ID #13 : No device
SCSI ID #14 : No device
SCSI ID #15 : No device
```

左図は、Ch A の表示です。  
Ch B の場合は、#0 にも  
IBM DDYS-T18350M  
が表示されます。

4. 以下の選択画面が表示されるので、「**<**」と「**>**」の矢印キーを押して、「Verify Disk Media」の項目を高輝度表示し、「Enter」キーを押します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)

```
Format Disk
Verify Disk Media
```

5. 「Verify Disk ?」と確認してくるので、「Yes」を選択するとディスクメディアのチェックが開始されます。
6. 進行状況を表示し、「Disk Verification Complete」というメッセージが表示されるので「Esc」キーを押します。

---

---

ディスクメディアのチェック中に、  
再割り当てをし直すようにプロンプトが表示される

- メディアに欠陥があります。

#### (4) ディスクのフォーマット方法

注意：

本機では、基本的に不要な操作です。むやみにディスクのフォーマットを行うと、ドライブ上のデータは破壊されます。  
また、一旦フォーマットを開始すると中断は出来ません。

1. 「`<`」と「`>`」の矢印キーを押し、確認したい SCSI チャンネルを高輝度表示し、次に「Enter」キーを押して選択します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)
2. 以下の選択画面が表示されるので、「`<`」と「`>`」の矢印キーを押して、「SCSI Disk Utilities」の項目を高輝度表示し、「Enter」キーを押します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)

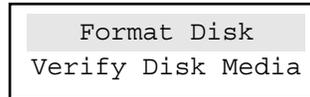
```
Options
-----
Configure/View Host Adapter Settings
SCSI Disk Utilities
```

3. 以下のような画面が表示されるので、「`<`」と「`>`」の矢印キーを押して、検査したい SCSI デバイスを高輝度表示し、「Enter」キーを押します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)

```
Select SCSI Disk and press <Enter>
SCSI ID #0 : No Device
SCSI ID #1 : IBM DDYS-T18350M
SCSI ID #2 : IBM DDYS-T18350M
SCSI ID #3 : No device
SCSI ID #4 : No device
SCSI ID #5 : No device
SCSI ID #6 : No device
SCSI ID #7 : Adaptec SCSI Card 39160
SCSI ID #8 : No device
SCSI ID #9 : No device
SCSI ID #10 : No device
SCSI ID #11 : No device
SCSI ID #12 : No device
SCSI ID #13 : No device
SCSI ID #14 : No device
SCSI ID #15 : No device
```

左図は、Ch A の表示です。  
Ch B の場合は、#0 にも  
IBM DDYS-T18350M  
が表示されます。

- 
- 
- 以下の選択画面が表示されるので、「↑」と「↓」の矢印キーを押して、「Format Disk」の項目を高輝度表示し、「Enter」キーを押します。  
(前のメニューに戻る時は「Esc」キーを押す。)



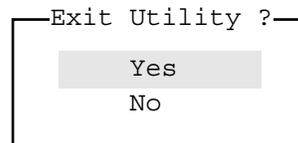
- 「Format Disk ?」と確認してくるので、「Yes」を選択すると、さらに「Are you sure ?」と再度確認してきます。  
「Yes」を選択すると、以下のメッセージが表示されフォーマットが開始されます。

```
!!! Please Wait !!! !!! Please Wait !!!  
Depending on your disk capacity, formatting  
may take from one minute to several hours  
!!! Please Wait !!! !!! Please Wait !!!
```

- フォーマットが終了すると、「Formatting Complete」というメッセージが表示されるので「Esc」キーを押します。

## B-4 . SCSI-BIOS Tool の終了方法

- 画面に以下のメッセージボックスが表示されるまで、数回「Esc」キーを押します。



- 「Yes」を選択し「Enter」キーを2回押します。

# 付 録 C . Windows NT 付属 ディスクアドミニストレータの使用方法

## C-1 . ディスクアドミニストレータの概要

ディスクアドミニストレータは、ディスク資源を管理するためのグラフィカルツールです。

ディスクアドミニストレータで、実行できる操作の概要

- ボリュームのフォーマットおよびラベル付けができます。
- パーティションサイズや追加のパーティションまた、ストライピングセットを作成するために利用できる空き領域など、ディスクに関するステータス情報を読み取ることができます。
- ドライブ名の割り当て、ボリュームラベル、ファイルシステムの種類およびサイズなど、Windows NTのボリュームに関するステータス情報を読み取ることができます。

## C-2 . ディスクアドミニストレータの起動方法

1. [スタート] メニューより、[プログラム] ▶ [管理ツール] ▶ [ディスクアドミニストレータ] を選択しクリックする。

< 起動までの各メッセージに対する応答 >

2. 「失われたディスクに関する構成情報を維持します」: [OK]
3. 「システム構成を更新します」: [OK]
4. 「ディスクアドミニストレータがディスクにアクセス出来るように、署名をディスク xx に書き込みますか」: [はい]
5. ディスクアドミニストレータが起動し、図 1 のダイアログボックスが画面に表示されます。(ディスク容量の変更などにより、一部表示が異なる場合があります。)

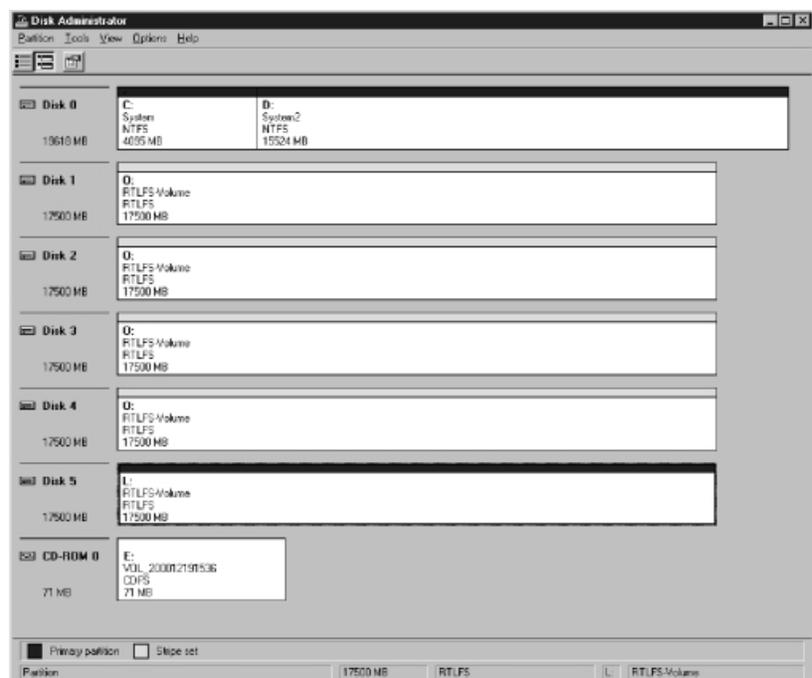


図 1. ディスクアドミニストレータのダイアログボックス

---

---

### C-3 . ディスク設定の確認

Windows NT のボリュームに関するステータス情報の確認

ディスクアドミニストレータダイアログボックスで、各ディスクのステータスが

ディスク No.	ドライブ名	フォーマット形式
ディスク No. 0	C :、D :	NTFS
ディスク No. 1	O :	RTLFS
ディスク No. 2	O :	RTLFS
ディスク No. 3	O :	RTLFS
ディスク No. 4	O :	RTLFS
ディスク No. 5	L :	RTLFS
CD-ROM	E :	——

となっていることを確認する。

ディスクの台数が足りない  
表示内容が上の表と異なる

- 項目 C-6 に従ってディスクアドミニストレータおよび、Windows NT を終了し、本機の再起動を試してください。(52 ページ参照)  
本機の再起動時に、項目 C-2、C-3 の確認を再度行ってください。
- それでも状態が変わらない場合は、ディスク設定不良が、ディスク自身の不良の可能性があります。

## C-4 . ディスクの検査方法

1. チェックしたいディスクをクリックします。
2. [ツール] メニューより [プロパティ] をクリックすると、図 2 のダイアログボックスが開きます。



図 2. プロパティダイアログボックス

3. [ツール] のタブをクリックすると、図 3 のダイアログボックスが開きます。



図 3. プロパティーツールダイアログボックス

4. エラーチェックの項目で、[チェックする...] をクリックすると、図 4 の HDD チェックオプションダイアログボックスが開きます。  
チェックディスクのオプションに [ ] が入っている場合は、クリックして解除 (無効) にしておきます。  
[開始] をクリックすると、チェックの状態が表示されチェックが終了し、図 5 の完了通知ダイアログボックスが開くので、[OK] をクリックします。

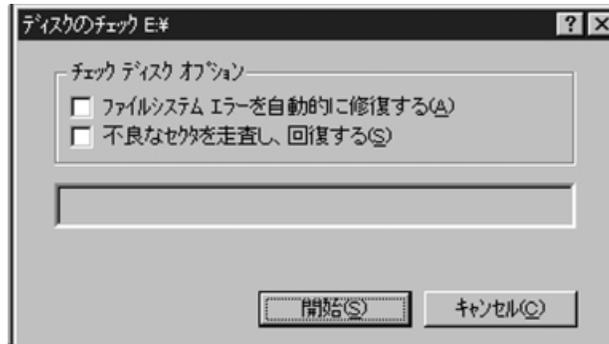


図 4. HDD チェックオプションダイアログボックス



図 5. 完了通知ダイアログボックス

5. 図 3 のプロパティーツールダイアログボックスに画面が戻るなので、[キャンセル] をクリックし、ツールを終了します。

ディスク 0 の「C : 」と「D : 」に対してチェックを行い、  
チェックが正常終了しない場合

- システムディスクが壊れている可能性があります。

## C-5 . ディスクのフォーマット方法

この項の内容は、本機にインストールした編集ソフトに重大な問題が発生し、本機のディスク構成情報が失われてしまった場合に、ディスク No.1 ~ 5 (ドライブ「O : 」と「L : 」) に対してのみ行うものです。

むやみに他のディスクに対して実行すると、インストールした編集ソフトだけでなく、本機のシステムソフトや記録したデータを破壊する事になります。むやみにフォーマットを実行しないことをお勧めします。

### ドライブ「O : 」のフォーマット方法 :

1. ドライブ 1 ~ 4 を、キーボードの [Ctrl] キーを押しながら、全てクリックします。
2. [パーティション] メニューより [ストライプセットの作成] をクリックすると、図 6 のストライプセットの作成ダイアログボックスが表示されるので、「OK」をクリックします。

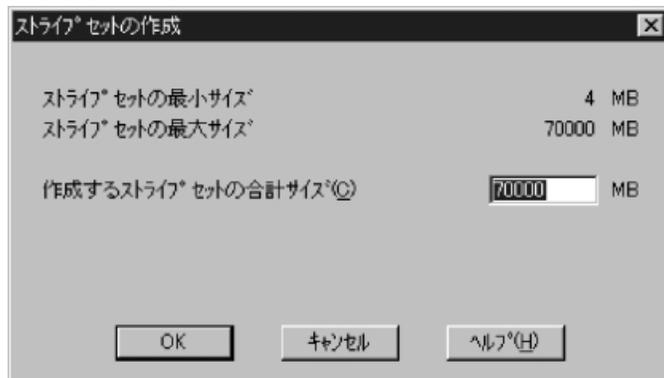


図 6. ストライプセットの作成ダイアログボックス

3. [パーティション] メニューより [今すぐ変更を反映] をクリックすると、図 7 の確認ダイアログボックスが表示されるので、[はい] をクリックします

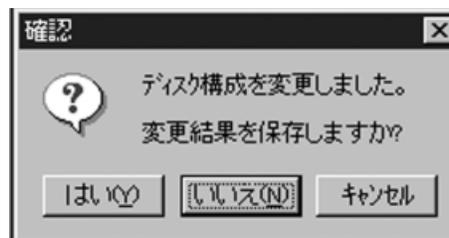


図 7. 確認ダイアログボックス

4. 図 8 の正常終了ダイアログボックスが表示されるので、[OK] をクリックします。



図 8. 正常終了ダイアログボックス

5. 先程作成したストライプセットのドライブをクリックし、[ツール] メニューより [ドライブ文字の割り当て] をクリックすると、図 9 のドライブ文字の割り当てダイアログボックスが表示されるので、

「ドライブ文字を割り当てる」 : “O : ”  
を設定して、[OK] をクリックします。

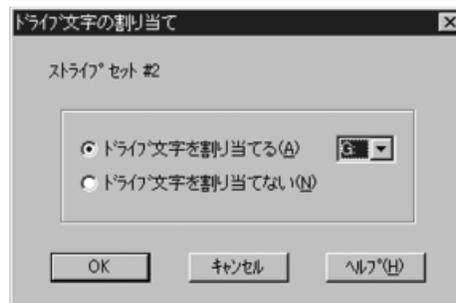


図 9. ドライブ文字の割り当てダイアログボックス

6. 図 10 の確認ダイアログボックスが表示されるので、[はい] をクリックします。

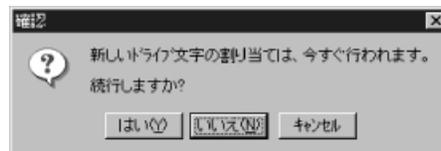


図 10. 確認ダイアログボックス

7. ディスクアドミニストレータを終了します。
8. [スタート] メニューより、[プログラム] ▶ [Panasonic RT-LFS] ▶ [format RT-LFS] を選択してクリックします。

9. RT-LFS フォーマットツールが起動し、図 11 のようなダイアログボックスが表示されるので、  
「Drive Letter」： “ O : ”  
を設定して、[Format!] をクリックします。

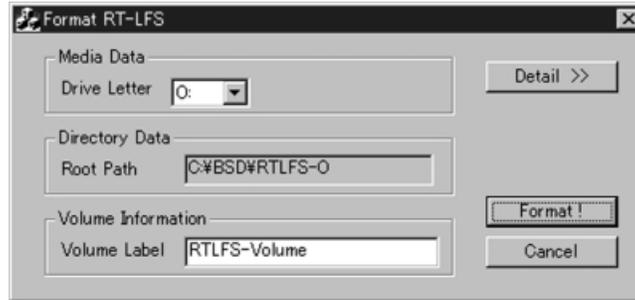


図 11. RT-LFS フォーマットツールダイアログボックス

10. フォーマットが正常に終了すれば、図 12 のようなフォーマット完了通知ダイアログボックスが表示されるので、[OK] をクリックします。



図 12. フォーマット完了通知ダイアログボックス

### ドライブ「L : 」のフォーマット方法：

1. ドライブ 5 をクリックします。
2. [パーティション] メニューより [作成] をクリックすると、図 13 パーティション作成ダイアログボックスが表示されるので、[OK] をクリックします。

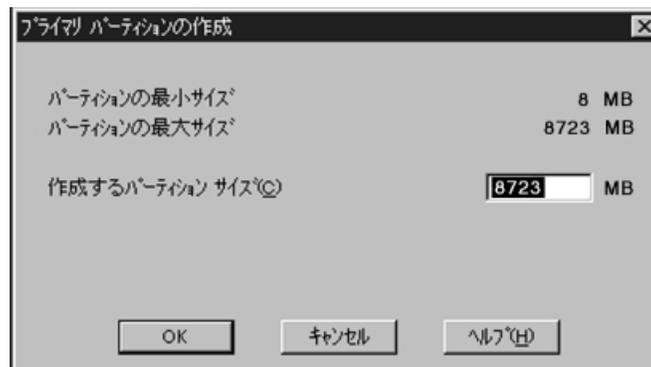


図 13. パーティション作成ダイアログボックス

- 
- 
3. [パーティション] メニューより [今すぐ変更を反映] をクリックすると、  
図 7 の確認ダイアログボックスが表示されるので、[はい] をクリックし  
ます
  4. 図 8 の正常終了ダイアログボックスが表示されるので、[OK] をクリッ  
クします。
  5. ディスク 5 をクリックし、[ツール] メニューより [ドライブ文字の割り  
当て] をクリックすると、図 9 のドライブ文字の割り当てダイアログボ  
ックスが表示されるので、  
  
「ドライブ文字を割り当てる」 : “L : ”  
を設定して、[OK] をクリックします。
  6. 図 10 の確認ダイアログボックスが表示されるので、[OK] をクリックし  
ます。
  7. ディスクアドミニストレータを終了します。
  8. [スタート] メニューより、[プログラム] ▶ [Panasonic RT-LFS] ▶  
[format RT-LFS] を選択してクリックします。
  9. RT-LFS フォーマットツールが起動し、図 11 のようなダイアログボッ  
クスが表示されるので、  
「Drive Letter」 : “L : ”  
を設定して、[Format!] をクリックします。
  10. フォーマットが正常に終了すれば、図 12 のようなフォーマット完了通  
知ダイアログボックスが表示されるので、[OK] をクリックします。
  11. RT-LFS フォーマットツールの、右上の  マークをクリックして、ツ  
ールを終了します。

## C-6 . ディスクアドミニストレータの終了方法

- [パーティション] メニューより [ディスクアドミニストレータの終了] を  
選択し、クリックします。

# 付 録 *D* . Windows NT 付属イベントビューアの使用法

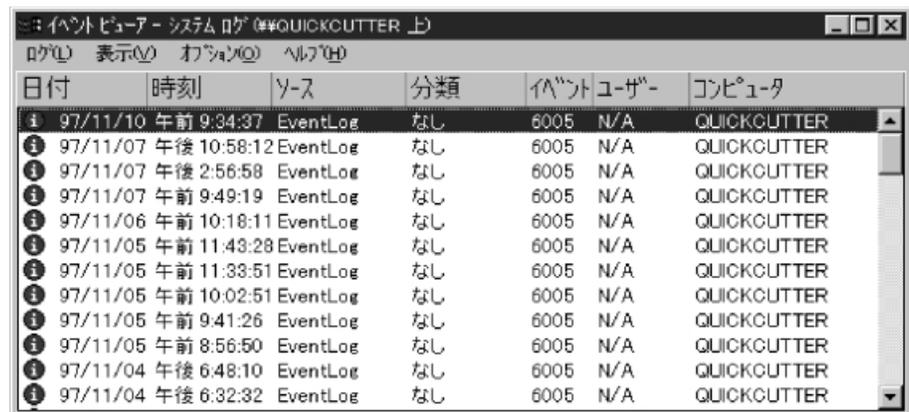
## D-1 . イベントビューアの概要

イベントビューアは、Windows NT のシステムやアプリケーションが発行するイベントの記録 (システム・ログ) が監視できるツールです。

イベントビューアより得られる情報は、本機のシステムで過去に発生した障害を分析する場合に利用します。

## D-2 . イベントビューアの起動方法

1. 全てのアプリケーションを終了し、Windows NT のスタートアップ画面に戻ります。
2. [スタート] メニューより [プログラム] [管理ツール] [イベントビューア] を選択し、クリックします。
3. 「システム・ログ」が表示されます。(下図は、その 1 例です)



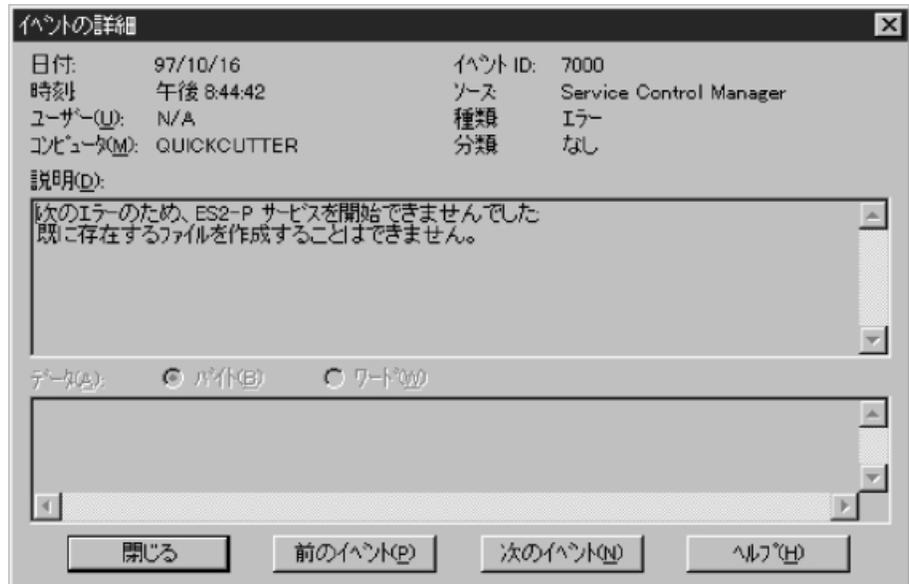
The screenshot shows the 'System Log' window in Windows NT. The window title is 'イベントビューア - システム ログ [QUICKCUTTER]'. The menu bar includes 'ログ', '表示', 'オプション', and 'ヘルプ'. The main area is a table with the following columns: '日付' (Date), '時刻' (Time), 'ソース' (Source), '分類' (Category), 'イベント' (Event), 'ユーザー' (User), and 'コンピュータ' (Computer). The table contains 13 rows of log entries, all with a source of 'EventLog' and a category of 'なし' (None). The user is '6005' and the computer is 'QUICKCUTTER'.

日付	時刻	ソース	分類	イベント	ユーザー	コンピュータ
97/11/10	午前 9:34:37	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/07	午後 10:58:12	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/07	午後 2:56:58	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/07	午前 9:49:19	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/06	午前 10:18:11	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/05	午前 11:43:28	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/05	午前 11:33:51	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/05	午前 10:02:51	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/05	午前 9:41:26	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/05	午前 8:56:50	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/04	午後 6:48:10	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER
97/11/04	午後 6:32:32	EventLog	なし	6005	N/A	QUICKCUTTER

---

### D-3 . システム・イベントの確認

1. 「システム・ログ」に記録されたイベントの1つをクリックし、選択色状態にして、ダブルクリックします。
2. 「イベントの詳細」が表示されます。(下図は、その1例です)



### D-4 . イベントビューアの終了方法

1. [閉じる] ボタンをクリックして、「イベントの詳細」を終了します。
2. 右上の  をクリックして、「システム・ログ」を終了します。

## 付 録 *E* . ハングアップ時の機能限定版編集ソフト終了方法

---

機能限定版編集ソフトによる動作確認中、指定外の操作により、アプリケーションが入力を受け付けなくなった場合は、以下の手順によって機能限定版編集ソフトの終了を試みて下さい。

1. キーボードの、[Ctrl] + [Alt] + [Delete] のキーを同時に押します。
2. 「Windows NT のセキュリティ」ウィンドウが表示されるので、「応答のないアプリケーションを終了するには…」のメッセージに従って、[タスクマネージャ] のボタンをクリックします。
3. 「Windows NT タスクマネージャ」ウィンドウが表示されるので、リストアップされた [Toolbox32] をクリックして選択色状態にし、[タスクの終了] ボタンをクリックします。
4. 「この Windows アプリケーションは…」のダイアログが表示されるので (表示されない場合は、再度 [タスクの終了] ボタンをクリックします。)、[アプリケーション終了] のボタンをクリックします。  
(ダイアログが表示されずにタスクが終了した場合は、そのまま次へ進みます。)
5. 「Windows NT タスクマネージャ」ウィンドウに戻るので、リストアップされた残りのタスクを、上記 3. と 4. の要領で強制的に終了します。
6. 「Windows NT タスクマネージャ」ウィンドウの右上の  をクリックして、「タスクマネージャ」を終了します。

---

## 松下電器産業株式会社 放送システム事業部

☎ 571-8503 大阪府門真市松葉町 2 番 15 号 ☎ (06) 6901 - 1161

VQT9123-1

F0101W1031 